

授業改善推進中期プラン 算数〔小学校第6学年〕

昭島市 成隣 小学校

学年等		項 目	内 容
令和5年度 第4学年	令和5年10月	学習に関する児童の実態・課題	○どの単元も意欲的に取り組もうとする児童が多い。 ▲文章題への苦手意識が強く、正しく立式できる児童とそうでない児童に差がある。 ▲問題を正しく理解して解くこと、間違えた問題を解けるまでやり直し、確実に習得することが今後の課題である。
		教科で身に付けさせたい資質・能力	・数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などの理解を確実に習得させる。 ・基礎的・基本的な数量や図形の性質や計算の仕方を見だし、既習の内容と結びつけ統合的に考えたり、そのことを基に発展的に考えたりする力を身に付ける。
		具体的な授業改善の方策	・くじらーニングの活用や宿題や自主学習などで、間違えた問題と類似したものを繰り返し取り組んで理解を深める。 ・自分の考えを説明する時間を設け、学びを深める。また、習熟の時間も確保する。
	年度末	第4学年における児童の達成度と第5学年に向けての課題	概ねの児童の達成度はよい。単元テストでは平均80点前後である。中には、算数の理解が低く、習熟度が2年生程度の児童も5～6名程度いる。既習事項を確認し、自己の習熟状況を知り、進級に向けて課題を掲げて取り組み、見解決していくことが必須である。第5学年では、個別に自己の課題を見つけ個々に課題を提出し習熟度の向上に取り組んでいる。
令和6年度 第5学年	令和6年10月	学習に関する児童の実態・課題	【実態】62名中(10月現在)20名～30名は、これまでの学習を生かした応用問題に取り組み、解決する力が備わっている。かけ算九九に不安がある児童は10名程度いる。四則計算の理解はよい。分数の理解、また、計算の仕方について課題がある。図形では、面積を求める問題、角度を求める問題とも概ねの児童が理解している。【課題】計算問題はできるが、文章問題は苦手な児童が多くいる。文章を立式する能力を高めたい児童が多くいる。
		教科で身に付けさせたい資質・能力	①計算力の向上(速く、簡単に、正確に、どんな時も→はかせどん) ②文章問題の読解力→立式し説明できる力。 ③図形(面積、体積)の応用問題を解決する能力。→応用問題では既習事項を使い切れていない児童が少なくない。
		具体的な授業改善の方策	①計算力の向上(速く、簡単に、正確に、どんな時も)＜方策①＞WSを活用し、毎時間、計算問題に取り組ませる。共通理解により計算力の習熟度を高めている。 ②文章問題の読解力→立式し説明できる力。図を使った説明ができるようにしている。ペア学習、2人以上との意見交流→共通理解の時間などを取り入れている。
	年度末	第5学年における児童の達成度と第6学年に向けての課題	①計算力…概ねの児童は既習事項を理解している。わり算の筆算、通分、約分等の理解に課題のある児童が6%程度いる。「はかせどん」を意識し計算問題にいい取り組み児童が増えた。②文章問題の読解力→立式し説明できる力について、数直線図等に文や式を添え、立式の理由や課題解決の説明ができる技能の高まりが全体的に見られるようになった。しかし①同様6%～10%程度の児童は定着が難しい。③図形(面積(5年)、体積(6年))の応用問題を解決する能力。→図形の面積の求め方について、理を理解して説明できる児童が増えたが、こちらも①②同様6%～10%程度の児童は定着が難しい。①～③の定着に時間がかかる、また既習事項を忘れてしまう児童が少なくないので、備忘として朝学習などを活用し既習事項の確認をしておきたい。
令和7年度 第6学年	令和7年10月	学習に関する児童の実態・課題	○学習に意欲的に取り組もうとする態度が見られる。 ▲算数に苦手意識をもっている児童も多い。整数の四則計算はできるが、分数や小数になると正答率が下がる傾向にある。
		教科で身に付けさせたい資質・能力	・既習事項を使って考えようとする。 ・基礎的な知識を身に付け、ミスなく計算する。 ・問題の内容を正しく理解し、図を描いて立式する。
		具体的な授業改善の方策	・習熟度別で基礎的な内容を習得させる。 ・自立解決・意見の共有の時間を確保する。 ・計算ドリル・プリント等を使い演習し、習熟させる。
	年度末	小学校6年間のまとめと中学校への引継事項	・他の教科に比べても苦手意識をもっている児童が多く、実際基礎学力の部分で身に付いていない単元等がある。三学期の「算数のしあげ」で、復習を重ねたことでだいぶ力は付いたが、課題は残る。

授業改善推進中期プラン 国語〔小学校第6学年〕

昭島市 成隣 小学校

学年等		項 目	内 容
令和5年度 第4学年	令和5年10月	学習に関する児童の実態・課題	○文章の読み取りの力が付いてきている。 ▲漢字の読み書きに定着の差がある。 ▲既習漢字を正しく読み書きすることに差がある。 ▲自分の考えを的確に文章に書いたり、表現したりすることに課題がある児童が多い。
		教科で身に付けさせたい資質・能力	・「聞く」「話す」「読む」「書く」のうち、「読む」「書く」が確実に身に付くようにする。「読み・書き」の徹底を図ることで、「読むこと」から情緒力を、「書く」ことで論理的思考力の育成を図る。
		具体的な授業改善の方策	・漢字のミニテストなどを習得できるまで行う。 ・自学自習ノートの中で作文指導を設ける。また、体験的な活動後には書く活動を取り入れる。 ・自分の書いた文章を読み直し、誤字脱字を確認したり、推敲したりする場を設ける。
	年度末	第4学年における児童の達成度と第5学年に向けての課題	・漢字の小テストでは成果として上がってきている。 ・何を書くのかが明確である分には自分の経験を時系列に沿って書くことができた。自分の文章の推敲については視点が明確でなく不十分である課題が残った。 ・他者との交流については自分の考えを広げたり、深めたりすることができた。
令和6年度 第5学年	令和6年10月	学習に関する児童の実態・課題	○感受性が豊かで、物語は叙述を基に読み取ることができている。テスト等でも質問に対して的確に答えることができる。 ▲作文等の自分の思いや考えを書くことに苦手意識があり、要約などは経験が少なく書けない児童が多い。 ▲漢字の書き取りや、言葉の理解には差がある。
		教科で身に付けさせたい資質・能力	・「書く」力が確実に身に付くようにする。特に自分の思いや考えを短文長文に関わらず、書けるようにする。 ・進出漢字の定着を図る。
		具体的な授業改善の方策	・作文を書く機会を増やし、書き方や原稿用紙の使い方の指導を徹底する。 ・授業中に自分の考えを書く時間を確保する。また、ノートを回収して適宜指導する。 ・漢字の小テストと間違った字の書き直しや練習を徹底する。
	年度末	第5学年における児童の達成度と第6学年に向けての課題	・作文指導等により、苦手意識をもつ児童が減ってきた。5年生の最後に取り組んだ「子供主張意見文」はドキュメントで書いたため、より書きやすかったようだ。6年生に向けて、原稿用紙の使い方を確実に習得させ、より豊かな表現を入れていけるような指導が必要である。 ・漢字の書き取りは個人差があるが、自主学習で自分にあった学習の仕方が分かるようになった。
令和7年度 第6学年	令和7年10月	学習に関する児童の実態・課題	○物語・説明文ともに叙述を基に読み取ることができている。 ○昨年度から作文の指導を重ねているため、段落を意識して書けるようになってきた。原稿用紙の使い方にはまだ課題が残っている。 ▲漢字の読み書きは定着していない児童が多い。
		教科で身に付けさせたい資質・能力	・「書く」力が確実に身に付くようにする。作文では、段落を意識し、豊かな表現で書けるようにする。 ・進出漢字の定着を図る。
		具体的な授業改善の方策	・作文を書く機会を増やし、原稿用紙の使い方をもその都度指導する。 ・発言する前に自分の考えを書く時間を確保し、その意見や表現の仕方等を共有する。 ・漢字の小テストと間違った字の書き直しや練習を徹底する。
	年度末	小学校6年間のまとめと中学校への引継事項	・物語・説明文ともに叙述を基に読み取る力は付いた。また、自分の考えをノート等を書くことができるようになった。 ・継続的な作文指導と、卒業文集の指導を通して段落を意識して書けるようになった。また、原稿用紙の使い方とも習得できた。 ・漢字の読み書きは定着していない児童が多い。